

令和7年度 学校評価表

島根県立吉賀高等学校

めざす生徒像～地域・社会に貢献できる人材(財)の育成～								教育目標			
1 地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる 2 地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う 3 地域の現状を知り、ふるさとの未来に向けて行動できる 4 地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける								1 自他を尊重し、他者と協働できる人間の育成 2 当事者意識を持ち、粘り強く挑戦する人間の育成 3 答のない課題を解決するために行動する人間の育成 4 広い視野に立ち、未来を想像・創造できる人間の育成			
項目 番号	評価 番号	評価項目	重点目標	具体的施策	自己評価主資料	自己 評価	(昨年度)	取組状況と課題	学校関係者評価		改善策
									評価	意見	
1	1-1	学力の向上	基礎基本の定着と学習意欲の向上	個々の生徒に対する、効果的な教科指導 ・学習支援と学習評価 ・教師の授業力の向上	教務・進路評価 生徒・保護者評価 授業アンケート	3	(3)	①指導者用PCや生徒用個人端末を利用した授業が定着してきた一方、授業公開などが形骸化している。また、学習や学力に関する保護者のアンケート結果の評価が低い。 ②スタディサプリの活用はまだ十分とは言えないが、生徒に取っては取り組み易いように思われるので、教員が積極的に活用するように働きかける。 ③学習習慣が年々下がっている。課題一覧表の実施など学習に取り組めるようになる支援を継続的に考えていく必要がある。	3	少人数の生徒をきめ細かく指導していただいている。特性に応じた指導や添削指導をおこなってもらっていることについては保護者からも感謝の気持ちを感じることがある。また、生徒と直接話す機会もあったが、進路についての考えや日頃の学習についてなど、成長を感じるところも多かった。学校としては授業だけでなくICTを利用した課題配信などの工夫をしておられ、今後も生徒の実態に応じた指導を続けてもらいたい。	①公開されている授業の周知の徹底や、同じ教科で参観できるように授業を空ける等の配慮をしていく。公開期間でコラボ授業(教科横断)のような面白い授業を企画するまた、授業公開週間に数日オンライン配信の日を作るなど気軽に授業参観ができるようにする。 ②③単元テストや振り返りテスト等の小テストでスタディサプリを利用できることを教員に周知する。定期試験期間以外でも課題配信を行い、家庭学習習慣を定着できるようにする。
	1-2			教育課程の編成充実 ・新学習指導要領の確実な実施に係る研究 ・サクラマス・プロジェクトに基づく授業改善と教育課程づくり	教務評価	3	(3)		3		
2	2-1	基本的生活習慣の確立	自主的・自律的生活態度の育成 社会人基礎力の育成	生徒との信頼関係構築と協働 ・挨拶、声かけの励行	生指・生徒・保護者評価	3	(3)	①日常的な挨拶や声かけを継続し、生徒との対話を重視することで信頼関係の構築に努めた。授業や部活動、学校行事等を通じ、生徒と教職員が協働する機会を増やすことができた。 ②安全・安心な風土づくりを進めた結果、「規律ある生活」に関するアンケート評価が上昇した。一方で、公共の場での態度やマナーには個人差が大きく、一部の生徒に規範意識の弱さが見られるため、継続的な指導が必要である。 ③生徒指導に係る諸規程の見直しを行った。教職員間の共通理解に基づく統一的な指導を進め、学校全体で規律意識を高める体制づくりと、生徒への周知・理解の促進が求められる。 ④養護教諭やCOを中心に個別支援を実施し、SSWとも連携して支援を行った。学校福祉連携モデル事業の終了に伴い、支援体制を維持できるかが次年度への課題である。また、保護者への支援体制の周知を毎学期当初に行ってきたが、アンケート評価は依然として低く、保護者の困りごとを把握する方法の工夫が必要である。	3	地域の住民として高校生はよく挨拶してくれていると感じる。横断歩道などでは車にも頭を下げる生徒がいて、心が温まることもあった。公共の場で高校生とも会おうが、特に気になることもなく健全な学生の姿のように感じる。中には挨拶が苦手な様子がうかがえる生徒も見受けられるが、そこまで気になるほどではない。多様な生徒がいるとは思いますが、少数数指導の強みを生かして先生方が協力してフォローしていただいていると感じる。その証として今年度生徒指導上の問題が少なかったこともあるのではないかと。安全・安心に学校生活を送れていることは何よりだと思う。ぜひ、継続していただきたい。保護者の困りごとを把握されることはとてもいいことだと思う。アンケートの取り方をICTを用いて工夫されとのことなので、今後の改善に活かしていただきたい。	②、③多様な生徒の状況に配慮しつつ、校則の必要性や意義を考えさせることで規範意識の育成を図る。生徒指導に係る諸規程については随時見直しを行い、生徒ポータルへの掲示等により周知・理解を促進するとともに、教職員が統一的な指導を行える校内体制を整える。 ④個別支援体制は一定の成果を上げ、SSW等の外部機関と連携した支援を実施してきた。今後は、相談から支援までの流れをマニュアル化し、持続可能な体制づくりと学校全体の支援力向上を図る。また、保護者への周知方法を見直し、相談窓口の明確化や発信手段の工夫を進めるとともに、アンケートの改善や相談機会の拡充により困りごとの把握に努め、ニーズに応じた支援の充実を目指す。
	2-2			自律的な生活態度の育成 安全・安心な学校環境の整備	生指・学年評価 生徒・保護者評価	3	(3)		3		
	2-3			教育相談活動の充実 ・必要な生徒への個別支援	生指・保健評価 生徒・保護者評価	4	(4)		4		
3	3-1	特別活動・課外活動の奨励	部活動の活性化	積極的参加の奨励 ・地域活動への参加	生指・学年評価 地域・保護者・生徒評価	3	(3)	①地域行事やボランティア活動への参加を積極的に呼びかけ、部活動単位や個人単位での地域貢献活動を推進した。その結果、生徒・地域アンケートの評価が大きく向上した。一方で、参加生徒が固定化される傾向があり、より多くの生徒が主体的に参加できる働きかけが必要である。 ②部員数の減少により活動が限定される部活動もあり、合同練習や活動内容の工夫など、持続可能な部活動運営が課題である。地域展開を見据えた中高一貫での部活動精選や、部活動・地域クラブのあり方について、今後も中学校や地域と連携して検討していく必要がある。	3	今年度のよしか祭で保育所や小中学校へも案内を出し、吉高マーケットには保護者を含め多くの方が参加してもらえたのは良かった。その他、地域クラブとして祭りやイベントに吉高生が参加してくれるのはとてもありがたい。ただ、メンバーが固定化しているところもあるようなので、他の生徒も機会があれば積極的に関わってもらいたい。部活動については部員の減少が残念ではあるが、仕方ない面もある。今後は地域展開の流れもあるもので、情報共有しながら力添えができることがあれば地域としてもやっていきたい。また、せっかくの中高一貫教育なので中学校との連携もしっかりとっていただけたとありがたい。	①地域行事やボランティア活動への参加を積極的に推進した結果、評価は向上したが、参加生徒の固定化が課題である。今後は活動情報の早期提示や参加しやすい仕組みづくりにより、より多くの生徒の主体的な参加を促す。また、「よしか塾NEXT」の今後のあり方について吉賀高校支援室と連携を図り、生徒がより広く、深く主体的に地域活動へ参加できる環境づくりを進める。 ②今後とも地域展開を見据えた中高一貫での部活動精選や、部活動・地域クラブのあり方について、今後も中学校や地域と連携して検討していく。 ③学校行事や生徒会活動について、慣例にとらわれない計画や見直しを促し、生徒の自主性や自律的な態度を育む場とする。
	3-2			学校行事の活性化 生徒会活動の活性化 ・集団としての教育力の形成	生指・学年評価 生徒・保護者評価	3	(4)		3		
4	4-1	進路指導の徹底	キャリア教育(サクラマス・プロジェクト)の充実と進路目標設定の支援	キャリア教育の充実	進路評価 地域評価	4	(4)	①アントレについては全校生徒・全教職員で積極的に取り組むことができた。また、今後もアントレを継続するためにも地域の方に活動の意図をきちんと理解してもらえようにしたい。 ②進路情報の提供については、進路ポータルを活用しきれなかったことが課題である。今後、より生徒や保護者にとって必要な情報を提供できるようにしたい。 ③大学進学率が上がっている中で、いっそうの学習習慣の確立や、メタ認知力を上げる必要がある。 ④昨年度からの求人票閲覧システム「handy」導入により、生徒も閲覧しやすく情報も詳しいものが提供できたが、活用にはまだ課題が残る。 ⑤インターンシップ、企業ガイダンス、アルバイトを通じて、生徒の職業観を育成できた。	4	今年度のアントレ発表会の評判がとても良かった。スキー場と温泉施設を絡めた企画や病院に絵を描くなど、これまでにならぬ発想で取り組んだものが多かったように感じる。また、バーチャルリアリティーの機能を使って吉賀高校の校内見学ができた活動などはそのレベルの高さに驚いた。こういった活動の延長に進路が結びつくというような気がする。サクラマスフェスでは先生方に関する防災に関する発表もあった。これについては町に住む外国人や小中学校との共通課題でもあると考えるので、これをきっかけにみんなで考える場があってもよいのではないかと、また、過去の進学実績や就職実績などは積極的にアピールすることで、保護者や地域の方から信頼を得ていくことが大切だと思う。また、求人票閲覧システムの導入は就職希望者にとってはとてもありがたい話だと思うので、ぜひ活用していただきたい。	①アントレの伴走をする教員からも地域の方に説明をするなど、学校と地域で互いの顔が分かる状態を活動を進めることをより意識したい。 ②進路ポータルの内容の見直しをする(面接、過去問DB、アントレ関係など)。保護者も閲覧できるように、ポータルのリンクを連絡網等で知らせる。また、OC情報などを掲示した進路掲示板コーナーを教室棟に作れないか。 ③HR計画について、マナビジョン活用や、3年間の見通しをもった計画になるように内容を見直したい。また、ポートフォリオファイルの保管場所を教室にし、生徒が自分の取り組みを見直しやすくてはどうか。行事のふりかえりもフォームは便利だが、紙でも残せないか。 ④求人票閲覧システム「handy」は今後も採用し、3年だけでなく全校が閲覧できるように案内する。ただ求人票の見方など、使い方の説明が必要である。 ⑤来年度も、2年インターンシップを全員参加とする。可能であれば2回実施にして、別の職場も体験できないか検討したい。
	4-2			適切な進路情報の提供	進路・学年評価 生徒・保護者評価	3	(4)		3		
	4-3		進路実現への支援	進路実現のための生徒個別支援	進路・学年評価 生徒・保護者評価	4	(4)		4		
	4-4			進路検討会・模試分析等による担任支援 各学年会との連携による生徒の進路情報の共有化	進路・学年評価 生徒・保護者 地域評価	4	(4)		4		
5	5-1	人権教育の推進	互いの人権を尊重する人間関係づくり・集団づくり	HRでの指導の充実 他者の尊重、教職員による人権意識高揚の働きかけ	生指・人権評価 学年評価	3	(3)	・HR活動では各学年で生徒の実態に応じた内容を実施した。 ・8月に吉賀町教育委員会主催の熊本菊池恵楓園に校長先生と1、2年生有志が訪問し見学した。 ・10月に3年生対象で同和問題に関する講演会を実施した。 ・12月の益田市人権センターにおいて開催された「いのち・愛・人権」展に本校の取り組みとして菊池恵楓園訪問についての生徒の感想やハンセン病患者の手記の感想会を文芸部員で行ったことをバネルで紹介できた。 ・教職員研修では2学期HR活動の振り返り、生徒の様子など情報共有する内容を行った。	3	8月に1、2年生有志と校長が熊本菊池恵楓園を訪問されたり10月に同和問題に関する講演会を実施されたりするなど高校としても積極的に活動されているように感じる。定期的に人権に関する授業も公開されているようだが、人権教育は継続していくことが大切だと考える。生徒への啓発とともに先生方の思いをしっかりと伝えていただきたい。また、人権について地域の方や保護者と共に考える機会があっても生徒の刺激になるのではないかと。	・HR活動の参観者が少ないので、連絡メールで保護者への周知をする。 ・12月の人権週間にあわせて、こどもの権利について、生徒に自分の人権が侵害されていないかを考える機会をHR活動以外で行いたい。 ・来年度は「らい予防法」撤廃から30年の節目でもある。外部講師に講演、授業をしていただきたい。 ・教職員研修では人権同和教育課より紹介された動画を視聴し意見を交換を行う。
	5-2			教職員研修の充実	生指・人権評価	3	(3)		3		
6	6	中高一貫教育の推進	サクラマス・プロジェクトと連動した中高連携の実施	めざす生徒像の実現に向けた活動の推進 推進重点事項の設定と実施	中高一貫教育アンケート	4	(4)	総合的な学習(探究)の時間を軸に連携する流れができた。本校のアントレ発表会や文化祭には多くの中学生が来校し、高校生と交流する時間が持つことができた。ただ、	4	今年度は吉賀中学校の生徒が2週にわたり全員見学に来てくれたり、発表会に柿木中学校の生徒が見学に来てくれたりして、例年よりも繋がりが深くなったと感じる。また、高校生の個々のアントレ活動で中学生との関りもあったようなので、このような交流を地道に続けてもらいたい。	次年度に向けてさらに各中学校との活動が活発になるよう、合同会議等で情報共有をこまめにおこないたい。また、総合的な学習(探究)の時間を活用し、吉賀町をフィールドとした学びを共有していきたい。今年度より中高一貫特別選抜において地域活動の実践についてプレゼンする時間を導入した。
7	7-1	魅力と活力ある学校づくり	サクラマス・プロジェクトと連動した活動の実施	町・外部機関と連携した活動の推進	総務・進路評価 生徒・保護者 地域評価	3	(3)	PTAの無料カレーについては、辛味スパイスを使って辛さの調整ができるように工夫し、小さい子どもなど多様な来場者に好評を得た。学校通信「めたせこいあ」を定期的に発行することができ、またHPやSNSも活用して学校の様子を発信することができた。PTA総会への参加者が少ない状況は変わらなかった。	4	保護者も協力して学校行事を盛り上げることで生徒たちも喜ぶと思う。また、サクラマスフェス等で吉高が参加したことで地域のいろんな世代へのPRにつながったと考える。また、「めたせこいあ」に限らずSNS等を使って幅広くPRすることが、魅力化につながるはずである。今年度は学校説明も好評だったらしいので、次年度のオープンスクールに参加したくなる生徒が少しでも増えるよう引き続き魅力アップを頑張ってもらいたい	PTA総会については来年度は外部講師を招いての全体での講演会を企画している。
	7-2			学校の情報を地域・保護者に十分に伝える	総務評価 生徒・保護者 地域評価	4	(4)		4		
8	8-1	学校安全管理	危機管理意識の高揚と安全な生活環境の確保	防災避難訓練の計画的実施	総務評価	4	(4)	地震・火災の避難訓練について、実際の災害を想定して現実的な訓練を実施することができた。生徒自ら考えて行動する場面を作ることができてよかった。	4	封筒訓練という実践的な取り組みはとても興味深い。宮城県にも視察に行かれた先生もおられ、学校の安全管理の意識の高さうかがえる。このような訓練を通して命の大切さを理解し、卒業してから主体的に動ける大人になってもらえることを期待する。そして、吉賀町の人々の命を救える人材が多く育ってくれると我々としても嬉しい限りである。	避難訓練については、マニュアルに書かれていないことも起こりうるので、さらに様々なケースを想定して、場面を変化させながらさらに実施していきたい。
	8-2			安全点検の計画的実施	総務評価	4	(4)		4		

【評価】 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや不十分であった 1:全く不十分で達成できなかった